

NOTICIAS DE S. PAULO

(Primeiro Diario Nipponico Publicado no Brasil)

(1)

No. 1469

2a. Feira, 18 de Abril de 1931



聖市アセンブレア街
十六番地
郵局二七五五
發行所
聖地新報社
購讀料
一年五銭
一段七二針
NOTICIAS DE SÃO PAULO
C. 2105 - Fone. 2-3636
R. ASSEMBLÉA, 16
S. Paulo - Brasil

蔣介石は兩足に一

宋子文は腹部に重傷

海軍機の長沙爆撃・その後の情報

(上海十五日)十日の我海軍航空隊の長沙爆撃による蒋介石、宋子文の生死に關し其後當地某方面に達した情報によれば蒋介石、宋子文共に當時長沙の中央軍政指揮所にあり我空爆の爲、蒋介石は兩足に又宋子文は腹部に夫々重傷を受け其他要人の爆死したものも多數に上り負傷したが、宋兩名は空爆を應急手當の上、夜に入つて嚴重な警戒裡に何處にか遊び去られたといはれる、尙ほ長沙空襲には敵は全く不意を衝かれて長沙は空襲警報を發する毎もなく我爆彈の雨に曝され、同地飛行場にあつた飛闘機も飛び上る隙もなく爆撃されたと傳へられる

蘇政府の猛省を促す

“事態悪化せばその責任負ふべし”

我要求貫徹にま進—外務當局談

(東京十五日)帝國政府は先に蘇聯政府の三領事館閉鎖要求に對し其不法を強調し該要求の撤回方を折衝の所、十四日蘇聯政府はこれを拒絶して來たので我外務當局は蘇聯政府の態度を頗る遺憾となし我要求の貫徹に邁進すると共に、十五日左の如く當局談を發表した。

蘇聯政府は諸領事館閉鎖問題に撒四すぐ折角折衝を續けて来たが、政府より本問題を要求し來つた關係があり兩國關係を成可く正常に導く趣旨より此提案に對し種々考慮を加へ函館附近の立入禁止区域なる領海に不法侵入した爲、抑留申なり

工作業の國産時代(3)

海外依存を脱却

事變を期に更に躍進

飛機工場は超高度機械に實現し、一千キロまでも理窟英佛に據られ日本の飛行機性能も時速七百キロは數年後には不可能だ。現在の世界記録一航行機の製作技術も新發明創造を万六千キロを二万キロまで十步も越えてゐた。しかし今日の日本の飛行機は最も重要な發達をとすることは想像される。

飛行機の分に達成する見込みがあるとげ、これら先進國の量を摩せ

技術に關して何よりも發動機の發動機に

飛行機の分に達成する見込みがあるとげ、これら先進國の量を摩せ

